

県大イベントカレンダー

- 2月11日(月祝)～15日(金)
後期定期試験
16日(土)～18日(月)
地域活動実践ターム
20日(水)
第14回就職セミナー(直前対策セミナー)
25日(月)
一般選抜試験(前期)
- 3月 4日(月)～7日(木)
学内企業研究会
12日(火)
一般選抜試験(後期)
21日(木祝)
学位記授与式
- 4月 4日(木)
午前:入学式
午後:新入生オリエンテーション
5日(金)
全学オリエンテーション
6日(土)
新入生 TOEIC テスト
8日(月)
前期授業開始
- 6月 6日(木)
開学記念日(通常授業日)
8日(土)
京滋公立大学総合競技大会(京滋戦)
15日(土)
大学祭「湖風夏祭」
- 7月20日(土)、21日(日)
オープンキャンパス

▽県大 jiman24 号についてご意見をお寄せください
(下記 QR コードを読み取ると、Web からアンケート
の回答ができます)



The University of Shiga Prefecture

県大 jiman

2019
FEBRUARY
024
滋賀県立大学広報誌

KENDAI JIMAN

特集1

突撃!! jimanな知事

三日月知事インタビュー

特集2

県大のカフェどころ ピアニシモ

特集3

県大のすごいひと

After School Report : 県大ファーム

県大 jiman

第24号のテーマは「道」です。今回はなんと！滋賀県知事の三日月大造氏にインタビューを実施しました。三日月氏が知事になるまでにどんな道を歩んできたのか、そしてこれから滋賀県が目指すべき道についてたくさんお話を聞かせていただくことができました。

私たちの目の前にも、大きな道が広がっています。

夢いっぱいの未来へ、一步踏み出してみませんか。

CONTENTS

特集

03 突撃！！jimanな知事

滋賀県知事・三日月大造氏

07 県大のカフェどころ ピアニシモ

09 県大のすごいひと

県大REPORT

13 After School Report :

県大ファーム

14 Information

編集後記

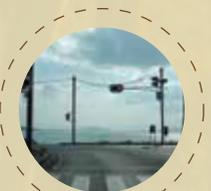
テーマ：通学路でお気に入りの場所



「果てしない大空と～」と口ずさみ
たくなるような風景がお気に入りです。
機械システム工学科 4年 吉川知秀



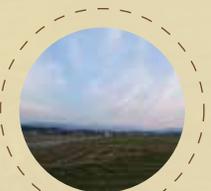
大学手前の道。日によって鳥の数が
違うので見飽きないです。
人間関係学科 3年 岸本沙希



美しい琵琶湖に対面するとき、
今日も頑張ろうと思えます。
人間関係学科 3年 池田真菜



運転中、正面に彦根城が見える瞬間が
好きです。
人間関係学科 3年 樋口怜奈



田んぼに、山に、素敵な景色です。
人間関係学科 3年 山根光穂子



「今日の夕飯なんやろう」と、
考えながら。
環境政策・計画学科
3年 正木美帆



石畳のオシャレな県大の道が
好きです。
環境政策・計画学科
2年 小沼里紗



のどか！って感じて好きです。
環境政策・計画学科
2年 藤本穂乃佳



日の出は沐浴の合図、
鳥たちが犬上川で集会する。
環境建築デザイン学科 2年 山田海理



車窓から見える関ヶ原の茶畑。
ほっこりした気分になります。
地域文化学科 2年 高木咲歩



だんだんと夜になっていく様が
たまらなく好きです。
環境政策・計画学科
1年 野口将太郎



キャンパス内を周遊する鴨に出会えた日は、
朝からハッピーです。
事務局 馬淵優子

地域文化学科 4年 小林真紀子
国際コミュニケーション学科 3年 足立実音
OB 高杉昭吾
事務局 今村圭吾

学生広報スタッフ大募集！

広報誌作成グループでは、県大 jiman の作成に参加してくれる学生を募集しています。

私たちと一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか。

デザインや編集の専門知識が無くても大丈夫です。

外部のデザイナーさんや編集者を招いて勉強会なども行う予定ですので、

興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

Mail :kendajiman.tw@gmail.com

Twitter:@kendajiman

年2回発行

夏号7月上旬

冬号2月下旬

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第24号
発行 | 滋賀県立大学広報委員会
編集 | 広報誌作成グループ
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
TEL | 0749-28-8200 FAX | 0749-28-8470
E-mail | keiei_kikaku@office.usp.ac.jp
発行日 | 2019年2月
www.usp.ac.jp
誌面デザイン | 学生スタッフ
表紙写真 | 学生スタッフ

突撃!!

Jimanな知事



三日月 大造 知事

環境政策・計画学科 1年
野口 将太郎

機械システム工学科 4年
吉川 知秀

環境政策・計画学科 3年
正木 美帆

人間関係学科 3年
山根 光穂子

「先頭に立って、滋賀をよくする。」
三日月氏の原動力は、故郷に対する熱い思いにあった。

2018年6月に再選を果たし2期目に入った滋賀県知事である三日月大造氏。本号では三日月知事からお声掛けをいただき、この対談が実現しました。世界的に注目されているSDGsの取組や、近江楽座に対する考え、さらには三日月氏が知事になるまでの軌跡を、県大生視点から解き明かします！



経歴

- 1971年5月24日 生まれ
- 1984年3月 大津市立日吉台小学校卒業
- 1987年3月 大津市立日吉中学校卒業（軟式野球部・生徒会会長）
- 1990年3月 滋賀県立膳所高等学校卒業（硬式テニス班・生徒会会長）
- 1994年3月 一橋大学経済学部卒業（石弘光ゼミナール・硬式テニス部）
- 1994年4月 西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）入社
- 2002年4月 （財）松下政経塾 入塾（第23期生）
- 2003年11月 衆議院議員初当選（以降4期連続当選）
- 2009年9月 国土交通大臣政務官に就任
- 2010年6月 国土交通副大臣に就任
- 2014年7月 滋賀県知事
- 2018年7月 滋賀県知事（2期目）

県大 Jiman を知って感じたこととは？

山根：県大 Jiman にお声かけいただいたきっかけを教えてください。

知事：たくさん届く資料の中に県大 Jiman があり普段から見ています。おもしろいなと思って読んでいたので、ぜひ作っている人たちと話ができたらいいなと思っていました。だから僕から望んで声をかけました。

山根：毎号見てくださっているのですか。

知事：はい。毎回見ていて、こんなところに着目してくれているんだ、こんなことを PR してくれているんだと、感じながら読んでいます。大学内だけでなく大学以外のこともいろいろと取り上げていただいているのが、良いと思います。

山根：ちなみに県大 Jiman の記事の中で、最近気になったものはありますか。

知事：やはり SDGs^{*1} についてですね。どうすべきかいつも考えているので、例えばみなさん学生の編集者の視点でどう見られているのか興味があります。あと、彦根城がいよいよ世界遺産に認定されるためのステップを歩んでいますよね。例えばそういうものを彦根の大学生がどう見てくださっているのかが気になります。県大生のみなさんは県内各地域を回りながら、勉強や研究、サークル活動をしてくださっている。その様子を取り上げていただいていることは、とてもいいなと思っています。

山根：ありがとうございます。県大生にはどのような印象を持たれていますか。

知事：僕は入学式、卒業式、そして講義や講演を依頼された時などに、学生さんとお話する機会があります。例えば上田洋平先生を通じて政所のお茶をつくらせている「政所茶レン茶[®]」のメンバーとの交流や、沖島を元気にするプロジェクトのメンバーと意見交換をする機会がありました。その学生たちと関わって、知的欲求と同時に、活動欲求というか、いい意味でも悪い意味でも学生離れた地域に対する関心を持っていることに感心しました。もっと学生らしくいてくれてもいいのにな、そんな地域地域って言わなくても、と言うぐらい各地域に出かけて行ってきている、という印象を持っています。

学生の力を取り入れていきたい

吉川：近江楽座^{*2} で政所茶を作っていることをご存じなのですか。

知事：あのお茶はおいしい。政所茶については「英語で表現して、海外の人に発信したら、ストーリーになると思う。」とよく言っています。

吉川：近江楽座を通じて、学生の力が滋賀県内にどのように及んだら良いとお考えですか。

知事：近江楽座の活動は、楽しいことをより楽しくする取組もあれば、シーズとニーズのマッチングの取組もあります。こんなニーズがあるよ、それならこれらを繋げてより良くしていこう、など。そのような点から、「転

がっていないものを転がす」、「0を1にする」取組だと思っています。そのような活動が学生の間で終わってしまうはずがない。例えばビジネスにつながる、人と人との出会い、さらにはこの活動で出会った人とパートナーになりましたといったことにつながる、そういう可能性を秘めているはずなんです。だから近江楽座を通じて、若さという面だけでなく、学問分野を活かして地域を助けていく、良いケーススタディになってほしいです。

吉川：近江楽座にもSDGsに関連した項目があるのですが、知事としてこれから学生と地域とともに取り組んでいきたいと考えている内容はありますか。

知事：もういっぱいあります（笑）。今から1、2時間いただけたらいっぱい話をしたいです。例えば、みなさんに既にやっていただいているのですが、淡水湖に浮かぶ日本唯一の有人島である沖島をどう発展させるかというのは、さらに伸ばしていきたいです。他には、滋賀県では地酒を振興する取組をやっています。現在、組合だけで33の酒蔵があります。そこで県では、「近江の地酒でもてなし、その普及を促進する条例」を議会で作りました。すると、滋賀県で酒米を作ろう、お米を作ろうということになります。また酒造りをするとなみは何かが良いか、近江牛か、漬け物か、それとも鮎寿司か、ということにもなります。さらには、器は何かが良いのか、長浜のガラスが良いのか、信楽焼が良いのかと繋がっていきます。こうやって波及効果をもたらせるような地酒振興をやりたいです。



地域振興のためにも学生の力は欠かせないそうだ

また、今はビワイチのサイクリングについても取り組んでいます。ナビゲーションサービスを提供している企業と連携してビワイチアプリ（ビワイチサイクリングナビ）を作りました。1年間で1万件のダウンロードがあったら良いと言っていたところ、半年で1万件になりました。みなさんも機会があったらこのアプリをダウンロードしてみたいです。おすすめスポットやルートを表示するだけではなく、ビーコン機能で、ルート上に設置したカメラから自動的に写真を撮ってもらえるようなサービスも始まりました。またダウンロード数が増えれば増えるほど、データが蓄積されるので、どこをどれぐらいの速度で走っているのか、どのスポットを検索してくれたのか全部データ

で分かります。このデータを活用して、機能を高めていく取組などを、学生さんの視点でもやってほしいです。さらに2期目では、山に力を入れたいと思っています。山にもっと人が住み、人の手が入る、そういう滋賀県を作っていくことで、山の健康を取り戻していきたい。例えば「政所茶レン茶」の取組や、林業やバンブーハウスプロジェクトといった山の資源を利用した仕組みがあります。そういうことを伸ばしていける、また実際に経験した人とどんな課題があるのか意見交換をする場をつくってきたいです。

SDGsの取組を滋賀県に

野口:先ほどもSDGsについて話が出ましたが、なぜこの滋賀県で積極的にSDGsに取り組んでいるのか、その理由を教えてください。

知事:なんでやと思う？

野口:今期のマニフェストにある「健康しが」に何かしらのつながりがあるのかなと思っていますが…

知事:僕の知事としての基本姿勢に、対話をして共感を得て協働する「対話・共感・協働」、現場に足を運ぶ「現場主義」、世界へのかかわりで滋賀を良くしていく「滋賀から世界へ、世界から滋賀へ」、また、「歴史的な課題にしっかりと対応できる知事であろう」や、「粘り強く卒原発していく」、こういったものがあります。僕は知事になってから、いや、なる前からですが、「人の幸せって何だろう」「人はどんな時に豊かだなあ、幸せだなあと思えるのだろう」ということを24時間、365日考えています。ところが、これを哲学者みたいに考えていると「自分は豊か・幸せとしたら、周りの人はどうだろうか」「誰かの犠牲のもとに自分の豊かさがあるのではないだろうか」「今の豊かさが、将来の貧しさにつながるのではないだろうか」「豊か・幸せだと思えない人がいるとすれば、それはなぜなんだろうか、どうすればいいんだろうか」という考えに至ります。やっぱり、誰も犠牲にしない豊かさ・幸せというものを求めたいし、誰一人取り残さない取組をしたいし、将来も豊かな滋賀でありたい。そこで、今滋賀県は「新しい豊かさをみんなで作ろう」という基本理念を使っています。これは今だけ・モノだけ・お金だけ・自分だけの豊かさではなく、将来も持続的にすべての人が心で実感できる豊かさを作りましょうというもので、近江商人の「三方よし」や、環境活動に熱心な県民の皆さんの実践など、もうすでにあるものを見つめ直すきっかけにしようという意味合いもあります。でも「新しい豊かさ」といってもちょっと分かりにくい・ピンとこないことがあるということで、「どんな時に豊かさを感じますか?」と県民の皆さんに世論

調査を行ったところ、7割の方に「健康」と答えていただきました。そこで、健康というテーマを第一に据えた施策をしようと考え、「健康しが」と言っています。そして、「誰一人取り残さない」「世界とのつながりの中で見る」という取組の一つに、このSDGsはピッタリだと思ったので、一昨年から本格的に取組を始めました。SDGsの中にはすでにやっていることもたくさんあるので、もう一度見直したり、さらに充実させたりするきっかけにしていきたいと考えています。

野口:SDGsには17の達成目標が掲げられていますが、現段階でもっとも達成度が高い項目と、もう少し努力が必要だと知事自身が思われる項目はあるでしょうか。

知事:どのゴールもどのぐらい達成できているかという評価や点検はまだできていません。2030年を一つのターゲットイヤーにして、17のゴール・169のターゲットを掲げていますが、改めて県でどれぐらいできているのか評価する、それもこれからの課題だと考えています。「パートナーシップで目標を達成しよう」。僕は17のゴールの中でこのパートナーシップが極めて大切だと思っています。行政だけがやる、知事だけがかけ声をかける、大学だけが研究するのではなく、みんなでやっていく取組にしたい。だから焦って見かけだけの達成目標を設定するようなことはしたくないんです。そこで一昨年、色々な勉強会をやっていただいたり、ワークショップをやったり、大学生の意見を聞いたりという取組をしています。そういったものを通してパートナーシップを作っていくことを、これからも大切にしていきたいと思っています。

滋賀県を「良く」したいという強い思い

正木:知事になろうとしたきっかけを教えてください。

知事:実は、大学時代のゼミ面接の時に教授に言われた言葉が、今の人生を決めたキッカケなんです。憧れていた石弘光先生のゼミの面接を受けたものの、専門的なことは全く分からなかった。そんな中、先生が私の名前をみて一言、「君の名前はええ名前やなあ、君の名前は政治家向きやなあ、君は政治家になれ」と。

正木:政治家になる前、鉄道会社に勤めていたそうですが…

知事:先生によると、政治家になるためには3つ方法があるらしいんです。1つは官僚になって政治家、2つ目は日銀に勤めてから政治家、そして3つ目は駅長さんになって政治家。当時僕にはそれがどう繋がるか全くわかりませんでした(笑)。就職活動終盤で某生命保険会社に内定が決まっていたのですが、先生の言葉を聞いて急遽鉄道会社を受け、JR西日本から内定をいただいたんです。日



本で電車を運転できる知事は私だけです(笑)。その後は、労働組合の役員などを経て政治の道へ足を踏み入れました。

正木:知事は大学時代から政治の道に進むことを考えていらっしゃったんですね。

知事:JRの新入社員時代に書いた文集にも政治家になることを宣言しているんですよ。ほかの同僚は「〇〇の駅長になる」とか、「〇〇な仕事をしる」とか書いているのに、私だけ「政治家になる!」と(笑)。

正木:政治の道に進んだ後のお話を聞かせていただけますか。

知事:まずは松下政経塾で修行をして、その後は国会議員になり、政務官、副大臣などをさせていただきました。とてもやりがいがありました。しかし、自分が育った、自分を育ててくれた滋賀にもっと役に立つ仕事をした、せなあかんと思ったんです。だから5年前、国会議員を辞めて、「立候補します」と言って滋賀県に帰ってきました。辞めて、知事になれるかもわからないし、せっかく議席をいただいている、議員バッチもつけさせてもらっている。でも、やっぱり滋賀・琵琶湖に対する想いや、未来、将来、子どもに対する想いが強かったと思う。今も強い。落ちたらどうなるとはあまり考えなかった。

正木:「滋賀を良くしたい」という気持ちが強かったんですね。

知事:「滋賀」っていうものをより良くしたい。それは色々な意味でできる。別に知事じゃなくたってできるし、国会議員でもできるのだけど、直接的に知事になって、先頭に立ち、渦中の中に入ってやりたいという思いが強かった。

多くのことを経験して成長しよう

正木:進路に多くの選択肢を持つ大学生に、人生の先輩としてもアドバイスをいただきたいです。

知事:もがき、悩めばいいですよ。そんなに簡単には決まらへん。と、僕は大学生の息子と、大学に行こうとする息子と、大学ってどんなとこって言っている高校生の娘に言っているんです。そんなに簡単には定まらないし、定めたことも色々変えたらいいんじゃないかと思う。悩むことに悩まないでほしいな。

後は、学生時代は色々なものを見たり、色々な人と交わったり、色々なことを学んだりできる。それを大事にしてほしいと思うな。

僕は大学生も重要な社会人だと思っているんです。近江楽座も社会の一員としての取組を学生の視点でやってくれていると僕は捉えています。大学生も社会人、その一員としてどのように学ぶのか、振る舞うのかによって卒業した後の色々な問題意識やスピード、立ち位置が変わってくるんじゃないかな。

正木:大学生も、同じ「社会の中にいる人」ですもんね。

知事:実は、学生も社会人ということは、国会見学に来た小学生に教えられたんです。国会見学に来た時に「国会は法律を議論したり予算のことを決めたりしています。皆さんも社会人になって税金を払うようになった時に、この国会の意味が分かります」って言ったら、ある子どもが

「三日月さん、僕も税金払ってます」と言われたんです。僕らもすでに消費税を払ってるよって言われて、せやな、納税者やな、と。そのお金は親が出しているとか考えだしたらきりが無いが、そう考えてくれている小学生がいるということが新鮮でした。だからそれ以来、「社会に出る」とか「社会人になる」とかいうことを子どもにも学生にも言わないようにしようと呼びかけているんです。みんな社会の一員だから。



学生での様々な経験を大切にしたいと語る知事

正木:知事のお言葉、とても勉強になりました。ありがとうございました。

※1 SDGs(持続可能な開発目標):2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された先進国を含む国際社会全体の共通目標で、17の目標とそれらを細分化した169のターゲットを有する行動目標。

○持続可能な開発目標(SDGs)の詳細



※2 近江楽座:地域活性化への貢献を通して地域社会へ根付いていくプロジェクトを募集し、所定の審査を経て採択されたプロジェクトに対して、調査、研究、活動等経費を助成するもの。

県大のカフェどころ

ピアノシモ

県大の喫茶風食堂であるピアノシモは、学生や教職員、聴講生などいつもたくさんの人で賑わっています。県大開学の3年目の1997年から今まで、少しずつ変化しながらも愛され続けてきました。今回の特集では、ピアノシモのメニューやそこで働く方などについて取り上げ、その人気の秘密に迫ります！

営業時間：授業期間中の平日 11時～17時
全メニューにミール*使用可



{ メニュー }

日替わり定食 L ¥507

ピアノシモの一番の人気メニューは、1日20食限定の日替わり定食です。常連の学生によると、栄養バランスが取れていることが魅力的なようです。



極上抹茶パフェ ¥328

デザートだとパフェが人気です。オススメは期間限定パフェです。生協学生委員会とんがりが毎年開催するパフェコンテストで、学生が考案したパフェの候補の中から、学生の投票で決められます。そして投票数が多かったパフェは、ピアノシモで販売されます。ちなみに2018年秋のグランプリは極上抹茶パフェで大好評でした。



フレンチトースト ¥237

他にもアイスやトースト、ドリンクなど色んなメニューがあります。空きコマにまったりしながら食べるのもオススメ！



{ インタビュー }

ピアノシモのお二人は感情豊かで、笑顔が素敵です。時には、学生の話聞いて一緒に涙することもあるそうです。よく来る学生の名前は覚えていらっやっやっ、取材中にも気さくに名前を呼んで話しかけられている姿が見られました。「人懐っこく気さくに話しかけてくれる」のが県大生への印象だそうで、下宿生にはお母さんのように頼られることもあるとか。

＼ こだわりは何ですか？ /

日替わり定食の小鉢は、栄養バランスを考えながら毎日手作りしています。メニューによっては前の日から仕込むこともあります！

＼ やりがいは何ですか？ /

ピアノシモには現役の県大生だけでなく、教職員や卒業生、聴講生の方など様々な人が訪れます。そういう人たちが笑顔でご飯を食べ、会話をし、帰るときには「ごちそうさま」「ありがとう」を伝えてくれると、「明日もがんばろう」と思えます。



あけみさん

みほこさん

お店の入り口



店内の様子



カロム



右：カロムは正方形の盤を2人もしくは4人で囲んで対戦するインド発祥のボードゲームで、多くの彦根市民に親しまれています。ピアノシモに置いてあるカロムは、開店当初からあるわけではなく、以前県大のリサイクル市で購入したものだそうです。

*ミールとは、事前に食費をまとめて支払い、1日の利用上限内であれば、食堂・生協ショップで自由に食事をすることができるシステムです。

県大の すごいひと

Vol.1

今回の見どころは!?

今回のテーマは「道」! 県大生の中には自分らしい「道」を歩んでいる人がたくさんいます。そんな中から編集スタッフが4人をピックアップ! 4つの個性豊かな「道」を辿ってみませんか?

-  世界のFTを繋ぐ「道」
下尾彩加さん
-  キューバから見た「道」
初田親さん
-  多様な文化と対面する「道」
森夕花さん
-  歌と音楽で進む「道」
wanさん

フェアトレード 全国のFT学生団体をつなぐ!



人間文化学部
国際コミュニケーション学科 3年
下尾 彩加さん

Q1 FTSN (フェアトレード学生団体) はどういった活動をされているのですか?

私は FTSN Japan の代表を務めていて、フェアトレードに関心のある学生を繋ぐための取り組みの1つとして年に一度フェアトレード勉強合宿を開催しています。各支部では、勉強会や講演会を開いたり、フェアトレードショップを巡る企画を立てたりしています。



Q2 なぜフェアトレードに興味を持たれたのですか?

最初にぐっと引き込まれたのは、フェアトレードチョコのとても可愛いパッケージでした(笑) フェアトレードのことを知るうちに、いち消費者として、社会や環境に配慮しているものを選びたい!と思うようになりました。

Q3 これまでの「道」の中で大変だったことは?

フェアトレードそれ自体に関する疑問なども沸いたりしましたが、1番はやはり運営に関してですね。全国ネットワークのFTSN Japanでは、運営メンバーが全国6支部の幹部なんです。なので、運営におけるミーティングはすべてオンラインで行なっていました。なかなか直接会えない中で、どのようにすればメンバーの士気を保つことができるか、どのように立ち回ればみんながそれぞれの役割のタスクを進めやすいか、試行錯誤しました。

Q4 これからやりたいことはなんですか?

フェアトレード製品の生産者さんに会って、お話を聞きたいです。フェアトレードがどのように機能しているのか、実際のところをまだ知ることができていないからです。

Q5 新入生にメッセージをお願いします!

自分の中のワクワクを大切にしてほしいです!私の学科では、2年生の夏から留学に行くのがスタンダードなんです。でも、私はちょうどその時期にFTSNに魅力を感じ、関わりたいと強く考えていたので、留学をしないことにしました。結果的に、FTSNを通して出会った人、学んだことはすべてかけがえのないものになりました。自分の決めたことなら、後悔しないように進んでいけると思うんです。なので、ワクワクを大切に、自分で意思決定してほしいと思います!



キューバに恋し、世界を目指す!



人間文化学部
国際コミュニケーション学科 2年
初田 親さん

Q1 キューバに留学を決めたきっかけは何でしたか?

日本人にあまり馴染みがない国に行きたかったんです。ゼミの先生にキューバを勧められたとき、そういや昔、興味あったなと思い出して、医療費や教育費が無料ということや、野球も強いということを知っていたりと、理由がたまたま重なって1か月間行くことにしました。

Q2 キューバではどのような旅をされていましたか?

僕が一番大事にしていたことは、現地の人になじむこと。街を見て、写真を撮ったりしながら、そこらへんにいる一般の人に話しかけに行ったりしていると、初めて会ったのに自分の家に入れてくれたり、ご飯をご馳走してくれたりする人たちに出会えました。



Q3 キューバの魅力を伝えたいのはなぜですか?

キューバの人にとって日本人ってあまり関心がないような感じで、また日本人のキューバに対するイメージもあまり良いものがないですね。自分が行ってみて好きになったから尚更、そういう理解を深めて偏見をなくしたいですね。知らない国なのにマイナスから入っておかしいですね。

Q4 この先キューバに関係した「道」に進みたいですか?

将来は、まだまだ繋がりが薄い、日本とラテンアメリカやキューバの関係を向上させるのに一役買いたいです。

Q5 新入生にメッセージをお願いします!

所属している大学の偏差値とかで自分の価値を決めるのはおかしいなということに気づきました。自分がしたいことがあったらすればいいと思います。どこの環境にいても自分のしたいことに本気で取り組んだら見てくれる人がいると信じてますし、僕も上に上がりたい。自分の力をどこまで上げるかに集中して、大学に入ってからみんなと向上していきたいなって思います。



子どもと関わるため、単身NZへ！

ニュージーランド



人間文化学部
人間関係学科 3年
森 夕花さん

Q1 活動内容を教えてください！

ニュージーランド（以下NZ）でのチャイルドケア（0～5歳児を預かる保育所のようなところ。幼稚園・保育園とは別でチャイルドケアセンターという枠組みがある）ボランティアのプログラムに参加してきました。期間は2週間で、その間ホームステイも体験しましたね。

Q2 きっかけは何だったのでしょうか？

理由は大体3つあって、1つはボランティアに興味があったこと。2つ目はもともと海外の異文化を経験したくて、実際に住んでみたいなって。3つ目は、ゼミの中で海外は個性を重視して先生の指導が少ないと聞いてきました。自分も学童でアルバイトをしていることもあって尚更海外の教育を実際に見てみたいな、と。

Q3 チャイルドケアではどんなことをしましたか？

チャイルドケアセンターは、勉強じゃなくて自由に遊ぶ場なんです。事前の説明でも、指示せず「こうしてみたらどう？」と提案するのはOKだけど、子どもの行動を否定しないよう注意されました。

あと、NZは移民の国なので、いろんな人種の子がいます。日本だと日本人の中にほかの民族がいる認識が強いと思うんですけど、NZの子どもたちはそういう感覚が全くないんです。人種って概念がなくて、どんな子とでも自然と一緒に遊んでる。それを見てると差別を生んでるのはむしろ自分たちなのかも、なんて思いますね。

Q4 ホームステイはどうだったのでしょうか？

ホームステイ先は漠然とキリスト教のお家だと思っていたら、ヒンドゥー教の方でびっくりしました。ご飯を手で食べたり、お祈りの時間があったり、文化の多様性に気づかされましたね。

文化といえば、NZでは元々の先住民であるマオリの文化を大切にしています。チャイルドケアセンターで子どもたちを見ていると、NZの人たちは小さな頃から文化を大切にする教育を受けているのを感じました。ただ、あまり固有の文化…風習とか慣習みたいなものはないみたいで。

どれも実際に生活しないとわからないことだらけです。

Q5 苦労したことはありましたか？

やっぱり言葉かな。一応行く前に勉強はしたんですけど、簡単な単語でしかしゃべれなくて、語彙があればよかったなって。子ども相手だと意外と身振り手振りで何とかなっただけですけど、何か伝えようとしている子話を聞いてあげられなかったのは残念でした。



Q6 この先の道は何か見えましたか？

機会があればまた子どもと関われるボランティアがしたいです。夏の間にオーストラリアに行ったので、学生の間にもう一度オセアニアに行きたいですね。

Q7 これから挑戦する人へメッセージを！

絶対学生の内に行っとくべき！まとまった時間がないとできないことは今やった方がいいです。あと勢いと「まあなんとかなるやろ」精神が大事。

私は今回一人で参加したんですけど、一人旅自体初めてだったし、その決断をしたこと、実際に「行けた」ことが成長に繋がったと思います。

迷うくらいならやってみよう！

個性の強すぎる超自由人！！



???学部 ???学科
wanさん

Q1 具体的な活動内容を教えてください！

だいたい週一で京都、大阪、滋賀、名古屋で路上ライブをしています。立ち止まって聞いてくれるのは女性が多いかな。CDが何枚も売れる日もあって勝手にフィーバーナイトって呼んでます。ツイキャス(無料配信サイト)は毎週金曜日の夜9時ぐらいから1時間。これは体調によるけど絶対やります。あとは月一でライブハウスでライブしたり。オーディションとかコンテストに出たりしています。



Q2 SSW(シンガーソングライター)を目指すきっかけは何でしたか？

祖父の家にトロフィーが100本ほどあったんです。小3の時に俺もトロフィーほしいなと思って、どうやってトロフィーもらえるかなって考えたら詩吟だったんですよ。それで詩吟の大会(コロンビア全国詩吟コンクール武生地区予選大会)を5連覇して、トロフィーももらえるだけもらいました。そしたらあれ、歌うのが楽しいぞと。中学で詩吟は引退したけど、中3で遊びでバンドとドラムをやって、高2の学祭で集まったメンバーでバンド組んでアコギとバンドをやりました。ギターを始めたのは高2。一人で歌いたくて、歌を際立たせるためにギターを始めました。とにかく歌がメイン。あと自分で曲作りたかったですね。歌を歌いたいと思うと同時に思ったかな。本気でSSWやろうとしたのは一昨年。

Q3 どんな曲調の歌を作りますか？

曲調とはにかくポップ、キャッチー。おしゃれすぎる曲は好きじゃないですね。聞かせる曲も作りたいけど、楽しんでもらうのが一番かな。

Q4 到達したい目標などありますか？

世界平和。最高到達点、これ以上ないのが世界平和。俺は世界平和のために歌ってるようなもんです。現実的に行くと、飯が食えるぐらい。やっぱ自分の歌聞いて元気になってくれたり笑顔になってくれたりしてくれたり嬉しです。

Q5 SSWを目指す人にメッセージを！

人からどうやって歌ったらいとか聞かれるけど、歌いたいように歌ったらええやんって思います。それやな、やっぱ。ありのままに歌ったらい。



wanさんへの連絡はこちらまで！

Twitter : @wanwanwan131
Instagram : wanwanwansan
E-mail : wansan9131-@ezweb.ne.jp

生物資源管理学科3年生の松本公哉さんは
県大ファームの初代代表であり、創設者である。
今回は松本さんに県大ファームの魅力取材した。

After School Report



2018年度に設立されたばかりの新サークルであるにもかかわらず、様々な活動で注目されている。そこにある魅力とはいったい何なのだろうか。その秘密を深掘りしていく。



活動内容を教えてください！

夏までの活動としては、県大の圃場と近くの開出今町の農家さんに畑を貸してもらって、草刈りして耕して、6畝の畑にして作物を栽培しました。あとは、竹を取りに行くところから始める流しそうめんとか、僕が竹藪を所有しているのでタケノコを取りに行ったり、県大の学園祭である湖風夏祭で出店したりなど、作物を育てる以外の活動もたくさんしています。



サークル立ち上げのきっかけは？

僕は、生物資源管理学科なのですが、座学で学んだ虫や病気のことを、座学だけでなくもっと実践したいなと感じていました。それで、同じように考えている人が何人かいたので、それなら野菜を育てられる場所を作ろうとしたのが最初のきっかけですね。ただ、野菜を作るだけではなく、どうせならいろいろなことを学べる場にしたいなという目的があったので、サークルという形で立ち上げました。

これまでの「道」(活動)で印象に残っていることは？

一番は湖風夏祭ですね。看板作業でもなんでも、とにかく失敗してもいいからやってみる。ただ、何かをするならば、自分たちで計画を立てて、戦略を練って、煮詰めてやる。例えば今回は豚井を販売したんですが、値段設定や、魅力的なパフォーマンスなどを考えました。大変ではありましたが、実際に数字として結果が出て、グランプリをとれたこと

は、代表としても大きな喜びでした。あとは栽培した野菜を借りている方におすそ分けしたら、とても感謝されたことですね。無事収穫できて部員も喜んで、お世話になっている方にもその喜びが伝播したことがうれしかったです。



今後の予定は？

新体制になっていくこれからは、彦根梨の農家さんと関わってきたいという話が出ています。農家さんからボランティアがほしいという話をちらっと聞いたので、お手伝いできたらと考えています。でも、畑のこともあるので、活動の幅を広げていくことだけでなく、新体制になって畑の管理をしっかりしていくことを忘れないようにしていきます。毎日の活動ができるのは、いろいろな人の助けがあってこそです。知識はあっても技術はない団体ですし、機材も何もなくて。毎回借りているのですが、そういう人たちの助けがあってこそ県大ファームですね。

新入生・高校生へのメッセージをお願いします！

県大ファームの魅力は、作物を作ることもですが、やりたいことができるだけかなえられるようにしていることだと思います。そしてただ単にかなえるだけでなく、知識などの身になるものに変えていきたいなと思っています。こんな活動をしてみたいと考えている人は、まだまだ変えていけるサークルなので、ぜひ来ていただきたいですね。



MT：金曜日の昼休み
活動：火曜or木曜日
場所：県大の圃場と開出今町の農家さんに借りている畑
人数：約40人
発足：2018年3月
Twitter：@kendaifarm
登録はこちらから→



担当スタッフ：山根光穂子、山田海理、野口将太郎



滋賀県立大学 公式Instagramページを開設しました

[アカウント]
@univ_shigapref

[URL]
https://www.instagram.com/univ_shigapref/



受賞・表彰

学生

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 浅井 敬祐 (2年)
The 6th International Indentation Workshop (第6回国際インデンテーション討論会) にてSilver Award for Student (学生講演賞第2位) を受賞

International Commission on Glass (ICG) Annual Meeting 2018 (ガラス科学の国際会議) にてStudent Poster Award を受賞

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 林 和宏 (1年)
第39回光化学若手の会にてポスター賞を受賞

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 松宮 祐介 (1年)
第3回滋賀テックブラングランプリにて企業賞【リバネス賞】を受賞

吹奏楽部
滋賀県吹奏楽コンクールにて金賞ときらめき賞を受賞 (指揮・松浦 章仁 環境建築デザイン学科3年)

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 井手 和真 (1年)
日本セラミックス協会第31回秋季シンポジウムにて優秀ポスター賞を受賞

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 森田 大智 (2年)
International Commission on Glass (ICG) Annual Meeting 2018(ガラス科学の国際会議)にて Student Poster Award を受賞

生活栄養学科 室岡 響 (3年)
公益社団法人日本糖尿病協会主催「チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト」にて最優秀賞を受賞

生活栄養学科 森 祐加理 (3年)
公益社団法人日本糖尿病協会主催「チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト」にて審査員特別賞を受賞

工学研究科先端工学専攻博士後期課程 上岡 直樹 (1年)
応用物理学会関西支部平成30年度第2回講演会「IoTを支える応用物理—新規デバイスから社会実装まで」にてポスター賞最優秀賞を受賞

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 黒瀬 直也 (1年)
平成30年度繊維学会秋季研究発表会にて若手優秀ポスター賞を受賞

川上村木匠塾 (環境建築デザイン学科、生活デザイン学科の学生が参加の地域活動)

ウッドデザイン賞：ソーシャルデザイン部門を受賞
環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程 梶原 暢人 (1年)
第36回農業環境科学研究会シンポジウムにて優秀ポスター賞を受賞

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 佐藤 嘉計 (2年)
平成30年度プラスチック成形加工学会秋期大会・成形加工シンポジア2018にて優秀ポスター賞を受賞

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 住野 翔郷 (2年)
平成30年度プラスチック成形加工学会秋期大会・成形加工シンポジア2018にて優秀ポスター賞を受賞

環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程 重吉 沙衣 (2年)
平成30年度糸状菌分子生物学コンファレンスにて学生優秀ポスター発表賞を受賞

工学研究科材料科学専攻博士前期課程 谷口 兼之 (2年)
第8回CSJ化学フェスタ2018にて最優秀ポスター発表賞 (CSJ科学フェスタ) を受賞
環境科学研究科環境計画学専攻博士前期課程 澤村 優佳 (2年)
木の家設計グランプリ2018にて準優秀 (3位) 賞を受賞
環境科学研究科環境計画学専攻博士前期課程 廣瀬 奈々 (2年)
木の家設計グランプリ2018にて20選・審査委員賞 (松岡賞)、ビルダー賞 (クレイル賞) を受賞
環境建築デザイン学科 高嶋 祐輔 (4年)
木の家設計グランプリ2018にて和える賞を受賞

教員

環境生態学科 伴 修平 教授
第3回滋賀テックブラングランプリにて企業賞【ヤンマー賞】を受賞
第17回世界湖沼会議にてBest presentation award(oral presentation)を受賞
環境建築デザイン学科 金子 尚志 准教授
第12回キッズデザイン賞を受賞 (作品名：めもと柱の家)
2018年グッドデザイン賞を受賞
環境政策・計画学科 村上 一真 准教授
環境科学会の2018年度優秀研究企画賞(富士電機賞)を受賞

研究室

生活デザイン学科 佐々木研究室 (意匠設計)
環境建築デザイン学科 高田研究室 (構造設計)
第12回キッズデザイン賞を受賞 (作品名：どんぐりけんだいまえ保育園)
環境建築デザイン学科 金子研究室、高田研究室
第12回キッズデザイン賞・審査委員長特別賞を受賞

人事

着任	平成30年8月1日付 千田 美紀子 人間看護学部 助教	平成30年10月1日付 中川 敏法 環境科学部 助教
	平成30年10月1日付 吳 志强 工学部 教授	平成30年11月1日付 桑原 頌治 人間文化学部 助教
	平成30年10月1日付 佐竹 彩 財務課 主事	平成31年1月1日付 辻 優美 教務課 主事

所属替え

平成30年10月1日付
岸本 明子 教務課 主任主事(財務課より)
平成31年1月1日付
藪田 麻紀 地域連携・研究支援課 主任主事(総務課より)
兼松 里織 教務課 主事(地域連携・研究支援課より)

退職

平成30年7月31日付
安田 昌司 産学連携センター 教授
平成30年9月30日付
小島 亜未 人間看護学部 助教
岩間 希 教務課 主査